

科目名：環境（領域） （必修1単位）		担当教員名：小山田佑奈	使用テキスト：出版社名・テキスト名 体験する 調べる 考える 領域「環境」（萌文書林）
		担当形態：単独	
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 環境
<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <p>幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての環境の意義を理解する。幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。幼児期の標識・文字等、情報・施設との関わりの発達を理解する。</p>			
<p>授業の概要：</p> <p>専門的事項については映像などの視覚的教材を活用し理解を深める。学校近くの公園を実際に散歩して、幼児が発見する自然や標識・文字等についてグループで話し合い、学生自身が自然や標識・文字等に関心を持つ活動を行う。自然物や身近な素材を用いた製作等、幼児が環境を取り入れて遊ぶ活動を実際に行い、体験的に学ぶ。</p>			
回	項 目	内 容	
1	領域「環境」の基礎知識	「環境」とは何かを学び、幼児期の環境教育の進め方について考える。ESDforSDGsについて学ぶ。持続可能な社会の実現を阻むものは何かを身近な問題を討論し合うことで探る。	
2	領域「環境」の基礎知識	子どもを取り巻く環境について過去60年の変化を調べる。現在、教育機関が果たす役割が飛躍的に大きくなっていることを踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を学ぶ。園の環境や子どもの発達と環境について、視覚教材を通して学ぶ。	
3	自然との触れ合い	公園を散策し、スケッチ・写真撮影・録音などを行うことで自然観察とグループでの記録作りを行う。まとめたものを展示する。	
4	季節感	季節により自然や人間の生活に変化があることに気づく。行事とその由来を調べグループで発表する。	
5	自然を取り入れた遊び	子どもが身近な自然に興味・関心を持ち、それを取り入れて遊ぶことの大切さを学ぶ。実際に季節の素材でネームプレートを作る。	
6	生命の営み	子どもが身近な動植物に親しみをもって接し、生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりすることの大切さを学ぶ。身近な生き物の飼い方、花・野菜の育て方を調べる。実際に野菜を育てる。	
7	身のまわりの物への愛着	子どもが身近な物を大切にすることの重要性を学ぶ。牛乳パックでフリスビー、羽子板を作り、幼稚園の子どもたちにプレゼントする。	
8	科学の体験	子どもが身近な物や遊具に興味を持って関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ大切さを学ぶ。重力体験、ゆらゆらモビールを作る。	
9	数量・図形に親しむ 身近な情報や施設を生かし、 生活を豊かにする	子どもが数量・図形に親しむことの大切さを学ぶ。野菜や身のまわりのものでスタンプ遊びをする。 子どもが生活に関係の深い情報や施設に興味関心をもつことの重要性を学ぶ。	
10	標識や文字の必要感を育む	子どもは仮に文字が読めなくても「絵文字（ピクトグラム）」の意味は理解できることを学ぶ。保育者は「人が人に何かを伝える、また、人と人がつながり合うための文字」が私たちの生活には欠かせないものであることを子どもたちが感じ取れるように環境構成していく必要があることを学ぶ。	
11	身近な情報や施設を生かし 生活を豊かにする	子どもたちが豊かな生活をするために、保育者自身が地域の催しなど様々な情報に興味関心を持つ必要があることを理解する。どのような公共施設が身近にあるかをグループに分かれ市内を区分して調べ、地域マップを作る。そして、その公共施設が子どもたちにとってどのような役割を果たしている	

		かを調べる。
12	指導形態とカリキュラム	スーザン・ハロウエイの事例分析から日本の幼稚園には「関係重視型の幼稚園」「役割重視型の幼稚園」「子ども重視型の幼稚園」の3つのタイプがあることと、その理由を学ぶ。小学校以降の学校教育では、カリキュラムは教育目的・目標及び方法とは区別された概念とされるのに対し、保育現場ではカリキュラムは教育内容ではなく、教育目標に向かっていく子どもの発達や生活の姿を明らかにしたものであることを理解する。そして、カリキュラムには子どもの主体性を育てる「児童中心主義カリキュラム」と子どもの活動の系統性を重視する「系統主義カリキュラム」の2つのタイプがあることを学ぶ。
13	環境の構成	保育環境の要素は何か、遊びや生活の環境を構成するとはどういうことかを学ぶ。小学校以降の学校教育では「教科書」があるが、就学前教育では、環境の中に子どもの発達に必要な要素を組み込んでいることを理解する。
14	環境の構成	認定こども園を見学し、実際の環境構成を学ぶ。年齢ごとに教室の環境構成の違いを比較したり、園庭やホールなどを見学することで、子どもにとって快適さと安心感をもたらす空間とはどのようなものかを理解する。
15	環境構成と遊びの展開	実際に保育室の環境を考え、その中でどのような遊びを展開していくかをそれぞれ発表する。
	期末試験	
<p>参考書・参考資料：</p> <p>幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 保育所保育指針 (平成29年3月告示)</p> <p>生活とあそびから見る「10の姿」(ナツメ社)</p> <p>春夏秋冬 環境づくり (ひかりのくに)</p>		
<p>学生に対する評価方法：</p> <p>課題、期末試験、模擬保育の発表等で総合評価。</p>		